

29 glibenclamide含有漢方製剤「消渴丸」の1例

1) 横須賀北部共済病院内科 2) 神奈川県衛生研究所理化学部

塩之入 太¹⁾, 佐野 敏男¹⁾, 古見 健一¹⁾, 永持 勲¹⁾,
熊坂 謙²⁾

症例は79才男性。グリコアルブミン17.8%, 空腹時血糖が74mg/dlと低く整形外科から内科に紹介となった。前医より混合型インスリン製剤30単位/日2回打ちを指示されていたが、本人が漢方薬「消渴丸」を個人輸入し医師の指示とは別に30T3xで内服している事が判明した。尿糖(3+)尿蛋白(2+)尿中ビリルビン(3+)だった以外、肝機能などの異常は見られなかった。漢方薬の中止後は血糖が上昇し、強化インスリン療法で48単位/日必要とした。「消渴丸」添付文書にはglibenclamide2.5mg/十丸含まれると記載されていたが、患者はSU剤の含有を知らなかった。個人輸入代行業者のホームページを見るとSU剤の内容を記載しているものもあるが、優降糖という中国語によるSU剤の記載もあり判断に苦慮した。十丸2.5g, glibenclamide2.5mg含有と記載されていた。試料を分析した結果、glibenclamide 1.567 ± 0.057 mg/十丸と含有量が少なく、1丸の重さも 244 ± 17 mgと不均一で、安定した薬効が得られない恐れが考えられた。代行業者に誠実な記載を求める必要があると思われた。代替療法についての患者指導の上で大変貴重な経験をしたので報告する。(1)Kumasaka, K. et al. Analysis of the oral hypoglycemic agent, glibenclamide, in a health food. Yakugaku Zasshi 123(12)p1049, '03. http://yakushi.pharm.or.jp/FULL_TEXT/123_12/pdf/1049.pdf

雑誌掲載イメージです。実際の雑誌掲載とは若干異なりますのでご了承ください。